

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	29
法人名	社会福祉法人 朱鳥会
事業所名	グループホーム かしの木
所在地	奈良県香芝市良福寺 37-3
自己評価作成日	平成24年10月28日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	平成24年11月26日
評価結果決定日	平成24年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑に囲まれた緑豊かな自然の中にあり、ホームの玄関より見える二上山が美しいと、ご利用者様に喜ばれている。グループホームかしの木は2ユニット横並びになっているため、ご利用者様同士の交流があり、気の合うご利用者様同士で行き来ができる。日常生活では、炊事・洗濯・掃除・食材の買い物等スタッフと共にして頂き、気分転換を図るためにも、散歩やレクリエーション・季節に応じた行事・月1回の日帰り旅行など、ご利用者様に生き活きた生活が提供できるよう

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄駅から徒歩での訪問も可能なホームです。自然に囲まれたのどかな場所にあり、眼前には二上山の絶景が広がります。日々の支援にも細やかな配慮が見られ、居室にこもらないように声かけをしたり、散歩や外出支援、毎日のレクリエーションにも力を入れておられるため、入居者全員が歩行可能な状態です。また、それぞれがゆったりとしたペースで生活されており、その人に見合った個別の役割を用意するなど、日々の生きがい作りにも努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

ユニット名 (かしの木1丁目)

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所扉に掲示している。また、ユニットごとの目標も職員で立て、目標に向かい実践している。	ホームの理念に加え、ユニットごとの理念もつくり、全職員で共有し実践につなげている。	事務所内に理念の掲示が見られましたが、入居者や家族が見える場所にも掲示されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は現在できていないが、隣接のケアハウスの方々との交流から始めている。	隣接のケアハウスと夏祭りを合同で開催したり、だんじり祭りの際に地域住民との交流を図ったり、また慰問の受け入れ等も行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣民生委員の方々・ボランティアの方々に施設見学にお越しいただき、認知症の方の理解等をしていただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出席いただいた方々に、状況報告等をさせていただき、意見・意向を聞きサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催しています。参加者は市の職員、係りつけの歯科医師、入居者家族で構成されています。	地域住民(自治会役員や民生委員等)の参加があったほうが望ましいでしょう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	隣接している同法人のケアハウスからの関係を基盤に、協力関係を築いている。	同一法人のケアハウスからの関係や、市からの依頼で緊急的に利用者を受け入れることもあるため、常に相談できるような関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行っている。また、玄関の施錠に関しては、チャイムを設置し可能な短時間より開錠している。	月1回の職員全体会議の際に勉強会を行っています。身体拘束をしないケアを実践しており、玄関も可能な時間帯は開錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を会議の中で行い、職員間で見過ごされないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、年2回の認知症実践者研修に受講し、制度の理解を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その都度傾聴し、対応している。	利用者からは日々の会話の中でさりげなく意見を聴取しています。また、家族来訪時に声かけを行い、家族が意見や要望を話しやすいような関係作りに努めています。	直接意見を言いにくい方々のためにも、意見箱を設置される等の配慮に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談の実施など、定期的な話し合いの場を設け、反映させている。	毎月開催の職員全体会議やリーダー会議に加え、年に一度、管理者との個別面談の機会も用意しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議や個人面談の中で努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修等を受講し、施設内で報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奈良県老人福祉施設協議会のグループホーム連絡会や、認知症実践者研修を受講し、同業者との交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをはかりながら、少しでも傾聴できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時・アセスメント時に要望等傾聴し、ご利用者ご本人のサービスに繋げ、信頼関係ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	検討中です。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不十分なところがあるが、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の様子や状態等を、毎月のかしの木新聞等に同封している。またご本人とご家族の関係がより良くなっていくように、ご家族やご本人の気持ちを聞き、調整している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までお住まいになられていた、近隣の方々の面会にお越しいただいている。	昔馴染みの美容院や訪問美容などを継続している入居者もおられ、友人等の面会もみられます。また、自宅等への外出や外泊も随時可能です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる限りトラブルをさげ、気の合う入居者同士が関係をもてるように、席等配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方に関しては、担当ケアマネより状況を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや暮らし方の希望等、聞いてはいるが、実践に少しでもうつして行けるように努めている。	日々のテーブルや屋外テラス等で表情を読みとりながら、さりげなく把握するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネ及びご家族より、情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々のリズムを把握し生活をしていただいているが、心身の状態把握を見逃してしまう時もある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在できる範囲で取り組み、計画を作成している。	半年に1回の見直しを行いながら、個々の状態に見合ったきめ細かい介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや、ケース記録・業務日誌等で職員間の情報を共有・実践し、介護計画の見直しまでには、至っていない部分もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望を受け、ご家族の変わりに通院や介護保険の申請代行等に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後支援していく必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1週間に一回内科医に往診していただいている。歯科医に関しては、できるだけ職員とのコミュニケーションをはかるためにも通院している。また、協力医療機関以外に、ご本人及びご家族の意向があれば、いままでのかかりつけ医に受診していただいている。その際、生活・健康状況は提供している。	協力医療機関として内科・歯科があります。また入居前のかかりつけ医に継続して受診することも可能で、職員から主治医への状況報告もきめ細かく行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がないため、協力医療機関の担当医に連絡を取り、利用者が適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のケアワーカーと連絡をとり、入退院をスムーズにできる様に、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と医師に相談し、チームで支援できるように努めていきたい。	ホームに看護師がないため、十分な医療対応は困難なもの、介護の重度化に対しては本人・家族の意向に沿えるよう、チーム全体で支援に取り組んでいこうと考えておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会受講及び応急手当普及員講習受講し、初期対応実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、避難訓練を行っている。	年1回、隣接するケアハウスと合同で避難訓練を実施しています(消防署の立会い指導あり)。施設が平屋建てで出口も複数箇所あるため、災害発生時には避難しやすい環境となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で意識し、注意しあっている。	一日の心の変化に合わせた配慮ある声かけやケアを実践しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、できる限り思いを聞き、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の職員体制にもよるが、最低限のペースを大切にし、希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日帰り旅行や外出時にはできているが、日々のなかでは、満足にはできていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入及び調理～片づけまでを、スタッフと共に行うように努めている。	食材の買い出しや調理・準備・後片付けに至るまで入居者個々に役割があり、職員と一緒に楽しく取り組んでいます。また外食やバーベキューなどの機会も豊富に用意されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は毎日記録し、確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の生活習慣に合わせ、無理なく行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握はできているが、全ての支援にまでは、至っていない。	個々の排泄パターンを把握したり、表情やしぐさを読み取ることにより、排泄の自立に向けた適切な支援を行っています。半数以上の入居者はおむつを使用することなく生活されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因等を把握し、ヨーグルトや食物繊維及び運動等、その方にあった働きかけを行い取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間は、決まっている。拒否のない人には柔軟に、拒否のある方には原因を追究し、気持ちよく、入浴を楽しんでいただけるよう支援している。	月・木・土の11時～16時が入浴時間となっています。入浴剤やゆずを使用したり、夕方には足浴を実施するなど、入浴を楽しむことができる支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホットミルクを飲んでいただき、入眠困難な方には、アロマを使用したり、その方に合った入眠方法を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書をファイルにいれ、新しい薬や変更があった場合には申し送り、利用者の症状を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	少しずつではあるが、取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ、希望に添える支援を行っている。	買い物、散歩、ドライブ、日帰り旅行、本人が行きたい場所へなど、日常的な外出支援が充実しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご本人管理されておられる利用者もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を保ち、ご利用者に不快感を与えないように努めている。	共用のリビングはレースのカーテンで光を調整し、リビング以外の場所にもソファが設置されています。大きな窓からは山々や季節の移り変わりが楽しめるなど、居心地よくゆったりと過ごせるような工夫や配慮が随所に見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端にソファを置いて、気の合ったご利用者同士で話しされたり、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの等、持ち込んでいただいている。	居室には馴染みの家具や愛用品を持ち込むことができます。全室洋室ながら、希望により畳を持ち込むこともできるなど、入居者が居心地よく過ごせるような配慮が十分行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレは案内表示し、床はフラットで安全な生活を送れるようにしている。		